

地方創生交付金事業・地方創生拠点整備交付金・計画期間中の地域再生計画 検証結果(令和2年度分)

交付対象事業の名称 地域再生計画の名称	事業概要	事業費 (単位:千円)	重要業績評価指標(KPI)				今後の方針	外部有識者の総評
			指標名	単位	目標値	実績値		
地方創生推進交付金								
1	稼ぐ力で自立するハイブリッドビジネスサポートシステム構築事業(5年目)	52,183千円 うち交付金充当額 2,600千円	天草製品の取り引き業者数(定期取引分)	社	89	52	<p>◆事業を継続する</p> <p>Ama-biZと天草宝島物産公社が連携する形(ハイブリッドビジネスサポートシステム)が構築されたことにより、ほぼ予定どおりの成果を見出すことができているが、更にお互いの組織の強みを生かして、売れる商品の開発及び、市内の生産者・加工業者等と都市部等取引先とのマッチングを推進するため、以下の取り組みによる連携の強化を図る。</p> <p>①Ama-biZにおいて、生産者、加工業者のセールスポイントを見出し、それを発信するための物産公社のホームページを開設し、物産公社が保有するFCPシート(商品カルテ)及び、市内生産者への招聘事業などの情報を取引先等へ向けて周知する。</p> <p>②天草宝島物産公社において、都市圏で行われる商談会へ出展し、商談した取引先を個別招聘等により市内生産者・加工業者等と都市部等取引先とのマッチングを継続して行う。また、商談会で寄せられた取引先からの商品改良要望などをAma-biZと連携して対応し、取引につなげていく。</p>	<p>◆「効果的であった」と評価</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により実績が伸びなかったが、「巣ごもり需要」などコロナ禍だからこそ変わってきた需要もある。そのような情報を素早くキャッチして事業の継続に取り組んでほしい。</p> <p>・Ama-biZと天草宝島物産公社の立ち位置が分かりづらいので明確にしてほしい。</p>
天草宝島物産公社を通じた売上額	千円	72,407	84,947					
最終の実績(増加分の累計)								
天草製品の取り引き業者数(定期取引分)	社	62	25					
			天草宝島物産公社を通じた売上額	千円	49,407	61,947		
2	人を呼び込むマグネットシティ構想(1年目)	16,438千円 うち交付金充当額 8,219千円	移住・定住促進施策を通じた移住者数	人	80	87	<p>◆事業内容の見直し(改善)を行う</p> <p>○二地域就労促進事業</p> <p>本事業の当初の目的を達成するための肝となる都市部の人材の往来については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けてきたため、ワクチン接種による終息を期待しつつも、新たな方策について検討していく必要がある。</p> <p>◆事業を継続する</p> <p>○未来人材育成・就職促進事業</p> <p>今後も、UIJターン就職支援については、熊本市での合同企業説明会の継続実施、県内大学・専門学校と提携した学内での天草就職促進イベントの実施、地元高校生を対象とした企業ガイダンス等を実施し、地元就職を促進する。</p> <p>デジタルスキル研修については、実施した講座の見直し、改良を行い、仕事に繋がるデジタル人材の育成に力を入れる。また、早い段階からデジタル産業に興味を持ち、天草に残って働きたいという若者を育成するため、学生のデジタル体験キャンプ等も行う。さらに、民間企業と連携し、常にデジタル技術を学ぶことができる人材育成拠点を整備し、人材育成を強化することで、IT・コンテンツ系の企業誘致に繋げ、魅力ある雇用の場の創出を図る。</p> <p>○移住・定住促進対策事業</p> <p>今後も、移住経験者を「移住・定住コーディネーター」として任用することで、移住希望者の相談にきめ細かく対応していくとともに、空き家バンクの登録件数の増加を図りながら、移住者の増加に努めていく。</p>	<p>◆「効果的であった」と評価</p> <p>○二地域就労促進事業</p> <p>・京都芸術大学との連携は今後とも続けてほしい。</p> <p>・今後は九州の様々な組織との連携も期待したい。</p> <p>○未来人材育成・就職促進事業</p> <p>・本交付金の事業期間は3年間ではあるが、それ以降も効果が持続するような仕組みづくりに取り組んでほしい。</p> <p>○移住・定住促進対策事業</p> <p>・移住定住への相談体制は整えられているが、コーディネーターにもう少し話がしやすくなる仕組みを作してほしい。</p> <p>・たくさんの動画を制作しているが、閲覧数が少ないのは勿体ない。市でどれだけ動画を作成しているか確認し、戦略的に使うことで効果が発揮できる。</p>
			大学等との連携事業の参加者数	人	80	355		

地方創生交付金事業・地方創生拠点整備交付金・計画期間中の地域再生計画 検証結果(令和2年度分)

交付対象事業の名称 地域再生計画の名称	事業概要	事業費 (単位:千円)	重要業績評価指標(KPI)				今後の方針	外部有識者の総評
			指標名	単位	目標値	実績値		
地方創生推進交付金(続き)								
3 多文化共生「天草版サラダ・ポウル社会」の構築事業(1年目)	<p>◆目的 市民ボランティア等を通じて市民と外国人との交流機会を拡大し、外国人のニーズを図るとともに、多文化共生の意識啓発を図りながら、天草に住みやすい環境の整備を行う。</p> <p>◆内容 【国際交流推進員の配置】 【多文化共生事業の実施】 ・日本語教室等の実施 ・外国人総合相談窓口の実施</p>	<p>3,434千円</p> <p>うち交付金充当額 1,717千円</p>	外国人居住者の満足している割合	%	65.2	58.7	<p>◆事業内容の見直し(改善)を行う ・ワールドフレンズ天草(市民活動団体)と今後も連携し、国際交流推進員(市会計年度職員)を活用した多文化共生・国際交流を実施する必要がある。 ・現在行っている「日本語教室」や「外国人総合相談窓口」については、外国人居住者の満足度に繋がっているため継続する。なお、日本語教室や外国人総合相談窓口の実施にあたっては、取り組みをまだまだ知らない人が多いため(外国人居住者アンケートによる調査結果)、市政だより・市のホームページ、市民課窓口等での案内のほかに、国際交流市民ボランティアなど市民の協力を得て周知を行う方法を検討する。 ・窓口の設置回数を見直すこととし(週1回→令和3年度は週2回開設)、これまで以上に利用してもらいやすい環境をつくる。なお、進路ガイダンス・学校生活セミナーは相談窓口の事業として対応することとし、子ども学習会は教育分野の事業で取り組むこととする。</p>	<p>◆「効果的であった」と評価 ・多文化共生は「やりたい」と思う人に門戸を開くことが重要。市としてはそのための情報開示を積極的に行ってほしい。</p>
地方創生拠点整備交付金 ※備品関係(ソフト事業)は地方創生推進交付金								
4 宮地岳観光交流施設整備事業(2年目)	<p>◆目的 過疎化が進み、地域力の低下が課題となっている宮地岳地区において、閉校した小学校校舎を利用し「道の駅」機能を付した観光拠点を整備することにより、観光客との交流による地域活性化を図るとともに、天草下島の中心部に位置する地勢的利点を活かし、天草市の観光情報を提供することにより島内周遊を促し、天草地域全体への波及効果を高める。</p> <p>◆内容 ・既存校舎改修工事(建築、電気、機械) ・トイレ棟新築工事(建築、電気、機械) ・外構整備工事 ・施設消耗品 ・備品購入費</p>	<p>工事関係 334,753千円</p> <p>うち交付金充当額 132,500千円</p> <p>備品関係 6,75千円</p> <p>うち交付金充当額 3,378千円</p>	施設利用者数	人	500,000	4,879	<p>◆事業を継続する 新型コロナウイルス感染症の影響下において、マイクロツーリズムの浸透を想定した「道の駅」スタンプラリーが好評であったことから、引き続き、天草市内の「道の駅」と連動したキャンペーン等の実施を進めるとともに、「道の駅」宮地岳かかしの里においてもSNSやメディアを活用した情報発信を積極的に行うことで観光客の誘客を図り、周辺地域への波及効果の浸透を図る。 また物産やレストランについても、来訪者に地域の特色を感じていただけるよう、夏蕎麦や地域ならではの農産物、加工品など地域の特色を生かした商品販売に努め、更なる魅力を構築していく。</p>	<p>※「宮地岳観光交流施設整備事業」と「天草市イルカセンター(仮称)の整備」による天草市の観光振興と地域活性化」は併せて評価を実施。</p> <p>◆「効果的であった」と評価 ・両施設は、地元住民が立ち上げた会社や地元漁協が管理運営しており、その道のプロではない方が携わっている。今後は立ち上げ期の次の段階を見据えた、さらなるサービスや運営方法などを学ぶことを市としても促してほしい。 ・天草市の道の駅の位置づけをきちんと行い、良さや利便性を図る取り組みが必要。</p>
計画期間中の地域再生計画								
5 天草市イルカセンター(仮称)の整備による天草市の観光振興と地域活性化(3年目)	<p>◆目的 五和町通詞島周辺海域には野生のイルカが生息し、平成5年にイルカウォッチングを開始し、天草を代表する体験型観光として、多くの観光客が訪れているが、近隣に観光施設等がないため、経済波及効果が発揮できていない。地元二江地区の地域活性化はもとより天草市の観光振興を実現するために、「天草市イルカセンター」を整備する。</p> <p>◆内容 【天草市イルカセンター新築】 構造 S造2階建て 延床面積 1,656.94㎡ 敷地面積 2,139.55㎡ 整備概要 ・センター新築(建築・機械・電気設備工事ほか) ・センター内展示物整備(イルカと触れ合えるインタラクティブ、イルカ図解展示物、VRシステムによる海中イルカウォッチング、イルカ情報モニター、天草観光情報マップほか)</p>	<p>767,183千円</p> <p>うち交付金充当額 383,591千円</p>	当センター窓口を利用したイルカウォッチング客数	人	105,000	29,246	<p>◆事業内容の見直し(改善)を行う 新型コロナウイルス感染症の影響による利用者・売上高の減少により、運営面で今後も厳しい状況が続くことが予想されることから、指定管理者である天草漁業協同組合と経営改善に向けた協議を継続していく必要がある。 また、令和3年3月に道の駅宮地岳かかしの里が開業したことにより、市内にバランスよく5つの道の駅が配置されることとなり、島内周遊性が高まったことが「道の駅」スタンプラリーでも証明されたことから、今後も市外向けの各種キャンペーン及びSNSやメディアを活用した情報発信を積極的に行い島内周遊性の向上を図る。 一方で、コロナ禍によるマイクロツーリズムの浸透を図るため、みつばちラジオなどを活用したインナープロモーションも実施していく。</p>	
			施設利用者数	人	114,000	86,722		
			施設売上高	万円	109,600	92,240		

地方創生交付金事業・地方創生拠点整備交付金・計画期間中の地域再生計画 検証結果(令和2年度分)

交付対象事業の名称 地域再生計画の名称	事業概要	事業費 (単位:千円)	重要業績評価指標(KPI)				今後の方針	外部有識者の総評
			指標名	単位	目標値	実績値		
計画期間中の地域再生計画(続き)								
6 天草市まち・ひと・しごと創生 推進計画(1年目)※企業版 ふるさと納税関係	<p>◆目的・内容</p> <p>天草市人口ビジョンで展望した人口減少に伴う課題を解決するために、天草市第2期総合戦略に掲げた4つの基本目標を達成するため、企業版ふるさと納税を活用するもの。</p>	<p>寄附受領額 10,000千円</p> <p>うち充当額</p> <p>「稼ぐ力で自立するハイブリッドビジネスサポートシステム構築事業」 9,000千円 (天草市起業創業・中小企業支援センター事業6,000千円) (天草宝島物産公社運営事業3,000千円)</p> <p>「人を呼び込むマグネットシティ構想」 (未来人材育成・就職促進事業) 1,000千円</p>	<p>若い世代の転出超過(累計)</p> <p>就業人口数の確保</p> <p>都市部から本市への転入(累計)</p> <p>25～44歳女性の就業率</p> <p>子育てしやすい地域と感じる市民の割合</p> <p>健康に暮らしていると感じる市民の割合</p> <p>安心して暮らせていると感じる市民の割合</p>	<p>人</p> <p>人</p> <p>人</p> <p>%</p> <p>%</p> <p>%</p> <p>%</p>	<p>1,172</p> <p>29,346</p> <p>400</p> <p>81.3</p> <p>69.5</p> <p>87.5</p> <p>93.0</p>	<p>2,406 (参考値)</p> <p>35,962 (参考値)</p> <p>87 (参考値)</p> <p>-</p> <p>-</p> <p>-</p> <p>-</p>	<p>寄付金を充当した事業 「稼ぐ力で自立するハイブリッドビジネスサポートシステム構築事業」 「人を呼び込むマグネットシティ構想」と併せて評価を実施した。</p> <p><実績値について> ・充当事業に係る分のみ記載。 ・いずれも国勢調査値を用いるため、今回は住民基本台帳の数値を利用して算出した参考値を掲載した。</p>	